

【インジケーター地獄に陥っていませんか？】

為替を始めて、最初にチャートをいじるときにインジケーターというものに出会うと思います。本やネットの情報を見て、勝っている人が使っているインジケーターを取り入れたりしていることが多いでしょう。

私もボリンジャーバンド、一目均衡表、指数平滑移動平均を全てチャート上に表示させていました。一目均衡表の転換線が基準線を超えた！遅行スパンがローソク足を抜けた！ローソク足が雲を抜けた！やった〜三役好転だ。

買い買い買い！と思っていたら、ボリンジャーバンドでは2シグマ、3シグマの位置にいたり。

一目均衡表では買いだけど、ボリンジャーバンドでは売りなんてことはよくある話です。買いと思ったらそこが天井、売りだと思ってらそこが底で、自分のチャートは監視されているのではないかと考えている人もいます。

...全て私の実体験です。

何も信じられない。となった私は全てインジケーターを消して1から出直そうと決断して、**水平線一本で検証しようと思いました。**

【水平線の引き方】

水平線の引き方で最初にどっちが正解なのかな。と疑問に思うことがヒゲで引くのか。

ローソク足の実体で引くのか。どちらで引いても正解なのです。しかし統一して水平線を引いていかなければ、簡単に自分のルールを破ってエントリーしてしまうことになります。

ヒゲで引いた場合



①ユーロドル1時間足

赤○部分を見てもらうと僅かながらオレンジ色の水平線に届いていません。

ずっとチャートを監視できる人なら入るチャンスはあるかと思いますが、多くの人が仕事や子育てなどで常にチャートを監視できる環境では無いと思います。



赤○部分を5分足で見ましょう。
②ユーロドル5分足

僅かにオレンジ色の水平線に届かずに落ちて行っていますね。途中で見ると入りたくなる場面が多いですね。



③ ユーロドル5分足

こちらも下がっているときにチャートを見た場合、「オレンジ色の水平線に反応して下がり始めているな。売ろう』と思ったら損切り幅が大きくなってしまい、利大損小のトレードではなくなってしまいます。

仮に③の画像、左側の赤○の下がり始めた途中で売ったとしましょう。長い間ヨコヨコで揉み合い、建値付近まで戻ってきて、含み損...

耐えられずに撤退したらそのあと下がる...。こちらもあるあるですね。

実体で引いた 場合

④ユーロドル
1時間足



実体で引いた
場合、赤○の
1のところで
若干オレンジ
色の水平線を
抜けています。
初心者の場合、
抜けた！買い
だ！と思い
買ってしまい
ます。



すると、そこ
が天井でみる
みる下がって
損切りになっ
てしまいます。

損切り位置を決めて買った場合はいいですが、飛び乗りで買った場合、どこで損切りしたらいいか分からなくなってしまいます。

こちらは何度か上抜けしていますね。

1時間足ではヒゲで反発しているようにも見えますし、実体で上抜けしているようにも、どちらにも考えられる場面です。

1時間足などの中期足でチャートを見ていると1日に1回チャンスがあるか無いかくらいになってしまいます。

しかも1度の損切りで熱くなってしまう、その損切りを取り返そうと倍のロットで一気にプラスに持って行こうとしてしまったり。

このような、損切りが多発して損切り貧乏になってしまいますね。

このような騙しを避けるために**ゾーンという考え方**をオススメしています。

中・長期足でゾーンで水平線を引くことで少ないチャンスを確実に手にしていきましょう。

ゾーンの考え方は実に簡単です。買いの場合、ゾーン上限がヒゲ、ゾーンの下限がローソク足の実体ということになります。



言葉で説明しても分かりにくいので下の画像を見てください。

水平線を広いゾーンと考えることでダマシにあうことも少なくなります。

1時間足～日足で2回以上反発しているところをゾーンで囲んでみてください。

戻ってきた場合はもう1度そのラインで反発する可能性が高いです。上抜け、下抜けした場合はその水平線まで戻ってきてたら反発する確率が高いです。

何度も反発しているゾーン以外で、水平線を引くポイント。

1：チャートの高値、安値

チャートを表示させていて見える範囲の中で、**目立つ高値、安値**に水平線を引いてください。**トレンドが発生した場合はまずはこの高値、安値を目指して動いていきます。**

2：.000 や、.500 などのキリ番

キリの良い数字、上昇トレンドできている場合は100.000円などのキリの良い数字に近づいてくると、これ以上は上に行かせないぞ。という人と、上昇トレンドだから上に抜けるぞ。という攻防が起こり抵抗として機能します。

キリ番付近はレンジになることが多いです。

3：ダブルトップ、ダブルボトム、三尊、逆三尊

これらはトレンドが転換のときに発生する形ですが、ネックラインは意識されます。ネックラインに長いヒゲが出ている時は、こちらもゾーンで引くとダマシに引っかかりにくいです。

4：板情報

板情報(オーダー状況)とは、どの価格帯にどれだけの注文が入っているかを見ることができます。注文が溜まっているところに水平線を引くだけでもどの価格帯が意識されているかを一瞬でわかることができます。

水平線を引くときに注意するポイント

1：チャート画面に何本も水平線を引かない

日足表示のチャート画面に現在の価格の上下にゾーンの水平線。4時間足表示のチャート画面に現在の価格の上下にゾーンの水平線。というように1時間足から日足くらいの足に引いて合計8本のゾーン数に収めた方が見やすい画面になると思います。

その時に、各時間足で色分けをするとどの水平線が強い抵抗か、より分かりやすいです。

2：各時間足に無理やり引こうとしない

週足などでトレンドが出ておらず、レンジの場合はそれ以下の足では目立つ高値、安値がわからない時もあります。

その場合は自分が監視する**一番の上位足**(私の場合は日足)での高値、安値のみに引いて、その水平線を超えてからトレードすることで迷いなく無駄なトレードが減らせます。

3：他の根拠と被る価格帯には必ず引く

ゾーンの中にキリ番、ゾーンの中にネックラインなどのように、いくつかの根拠が被っている価格帯は根拠が**1つの抵抗よりもより強い抵抗になるので必ず引きましょう。**

まとめ

インジケーター地獄に陥っている方へ。

一度もみなさんも全て取っ払って見たら新しい発見があるかもしれません。

インジケーターがこうなったから買い、売りでは自分で考えることをやめてしまっているとも言えます。

まずは自分のルールを決めて水平線を引く練習をとにかくとにかくすることです。各通貨によっての特徴があるのでそこを掴むためにも1日1時間はチャートを見る時間を作ってください。